

正しい知識と適切な予防

われています。

まず感染の予防が第一

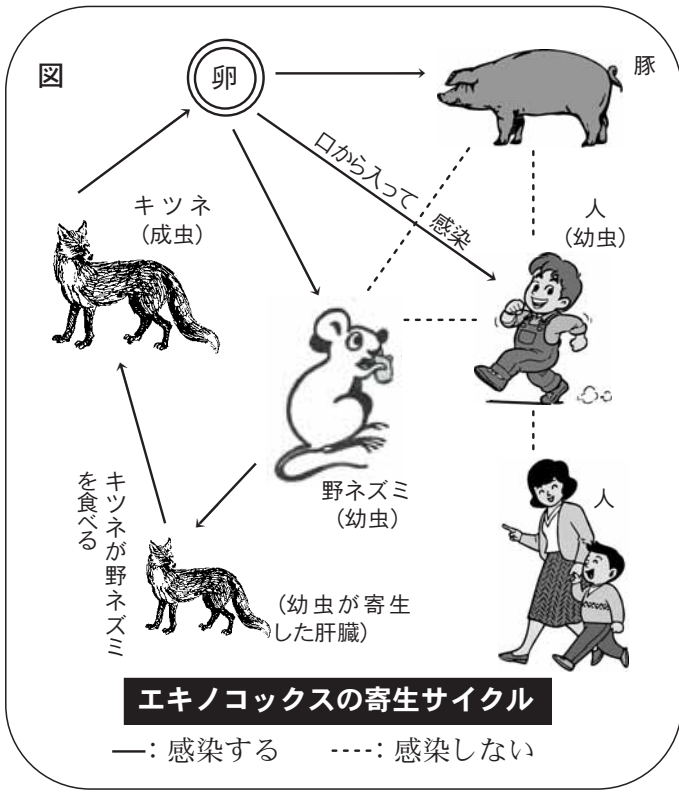
正しい知識を持ち適切な対処をすれば、人はエキノコックスから体を守ることができず。

これから山菜採りのシーズンを迎え、エキノコックス症にかからないためには感染からの予防が第一です。そのために、生水や生ものには気を付けるように保健所などでは呼びかけています。

生ものや生水を口にしない。



エキノコックスは、虫卵が口に入ってから感染します。野山に出かけた時は小川の水や沢水など生水は飲まないことです。春は仔キツネが巣の周りでネズミを捕り始めます。また、ほかの小動物や鳥などが少ないこともあり、4月から6月はキツネのエサとして野ネズミへの依存が高い時期です。



エキノコックスの虫卵に関する実験結果

によると気温が高くなるほど寿命が短くなります。

また虫卵には次のような性質があることが分かってきました。

- 高温に弱い (100度で1分以内、70度では5分以内で死滅)
- 乾燥に弱い (21度〜24度、湿度6・2〜33・8%で7日間放置されたものに感染性なし)
- 低温には強い (氷点下30度で28日置いたものにも感染性もあり)

温度	4度	10度	15度	20度	25度	30度
虫卵の寿命	205～269日	90～120日	45～60日	24～30日	12～15日	6～8日

キツネ以外の動物からも

研究が進み、キツネ以外の動物にもエキノコックスが寄生していることが分かってきました。

19世紀後半に毛皮目的で飼育されていたキツネのエサとしてアラスカからカムチャツカに野ネズミを持ち込んだのがエキノコックスの生息域を拡大。20世紀初めには千島列島まで広がりました。

日本にいなかったエキノコックスですが、大正末期に礼文島で毛皮とネズミ駆除を目的に千島から移入されたキツネに寄生し、100名以上の患者が発生したという歴史があります。

野ネズミを食べる動物には注意が必要です。野生化したアライグマの体内からエキノコックスの成虫が見つかりました。雑食性である犬もネズミを食べることがありますので放し飼いは禁物です。

エキノコックスと無縁ではない中で、改めて感染しない・させない対策を皆さんも考えていかなければなりません。

以上のことを参考に、沢地の場所やササ藪の中は適度な湿度と温度が保たれエキノコックスの虫卵が多くいると指摘する人もいます。

生水は煮沸し、山菜なども十分に熱を加えることが大切です。こまめな手洗いも感染予防には有効な手段と言われています。